

# ふるさと歴史散歩

〔第175回〕松崎八幡宮址

その十四



古代の我が国の実情を知るには、中国の歴史書か、古墳から出土した考古資料が大きな役割を果たしている。

埼玉県稲荷山古墳から出土した「辛亥銘鉄剣」は、王権の性格や国際関係を知る上で重要な内容を与えてくれた。

この鉄剣の表と裏には、金象嵌で彫られた115文字があり、乎獲居臣という人物が、先祖代々、大王の側近（武官）として仕える一族で、自分は「獲加多支鹵大王」の「杖刀人」、即ち親衛隊の隊長として仕えたということが書いてある。

また、熊本県菊水町の江田船山古墳から出土した銀象嵌鉄剣の57文字の銘文は、この獲加多支鹵大王に「典曹人」として仕えた「无利豆」という人物についてであった。典曹人とは文官のことである。

獲加多支鹵大王は、「倭の

五王」の最後の王として中国の宋王朝順帝（昇明二年西暦478年）に遣使し、歴史書に名を残した倭王「武」のことで、雄略天皇と考えられている。

「辛亥銘鉄剣」が出土した稲荷山古墳は、全長120mという規模の前方後円墳であるため、乎獲居臣は東国の豪族であったと考えられる。

また一方の江田船山古墳も全長47mの前方後円墳で、龍文透彫の冠帽や亀甲文様の冠帯や金銅製飾履（はきもの）などの副葬品から、无利豆もこの地域の豪族の一人であったと考えられる。

現在、確実な資料はこの二例だが、千葉県市原市稲荷台一号円墳から出土した「王賜銘鉄剣」は王名や年号は欠損しているが、王がこの古墳の被葬者に下賜した剣であることは明らかである。

また島根県松江市岡田山古

墳出土の鉄剣には、部に姓を与えて大王に奉仕させる部民制を示す銘文がある。

これらの考古資料は、畿内ヤマト政権が東国や九州にまで政治権力を拡大し、地方の在地豪族が大王の側近（伴）として出仕する制度が確実にあったことを示している。

特に、典曹人の存在は大王の命令や意志を文書に作成や伝達するなど王権執行機能的なシステムの一部と見ることができる。



江田船山古墳出土の金銅製冠帽

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭

朝パッ君ネットワークおすすめレシピを紹介

## 朝パッ君 レシピ

レンジで簡単

### 野菜たっぷり きつね丼風

好きな野菜でアレンジできるよ



#### 材料(4人分)

- 油あげ(短冊切り) 4枚
- 青ねぎ(斜め切り) 2本  
〔または、もやし(ひげをとって半分)1袋。なしでも可〕
- にんじん(千切り) 1/2本
- しめじ 1パック
- 水 200cc
- しょうゆ 大さじ4
- みりん 大さじ4
- 砂糖 小さじ4
- たまご 3~4個

#### 作り方

1. たまご以外の材料をボウルにいれてラップをかけ、600ワットの電子レンジで2分加熱する。
2. ①に溶き卵を入れてラップをかけ、600ワットの電子レンジで1分加熱する。
3. お椀か丼にごはんをよそい、②のをせて完成。

前日に材料を切っておけば、5分以内でできます！

レシピ提供 認定こども園つばめ 固健康推進課 ☎286-3257